

なめがた市民 100 人委員会「第 2 班」議事メモ

議論した基本目標	住みやすい環境を整備する
コーディネーター	熊井成和（構想日本特別研究員）
審議員	平山清直（構想日本）
説明担当者（自治体）	事業推進課・総務課・介護福祉課・社会福祉課
日時	2021 年 6 月 27 日（日）14 時 00 分から 15 時 00 分
その他	参加者数 <u>会場 4 名</u> オンライン： <u>1 名</u> 欠席者数 <u>19 名</u>

総括

コーディネーター総括

- 地域コミュニティは伝統ある既存のコミュニティをどうするか。地域包括ケアシステムを円滑に進められる良い面もあり、移住者がコミュニティに入りづらい村八分問題にも関わってくる悪い面もある。人と人との話し合う場を作ることが大切ではないか。
- 「移住者とコミュニティ」「場をどうするのか」ということを次回やっていきたい

協議の流れ（摘録）

コ）地域コミュニティの話があって、町内会などが既存にある。災害時の消防団も大切。井戸端会議のような集いも必要で、そのリーダーのような人がいる。

高齢者や障がい者の視点に立った時に、安全性を担保できるか。日常生活での支援があるか。地域の声を聴かないといけない。

●定住支援の観点

移住者を引き付ける宝は

- ・災害少ない、野菜、水がおいし、治安もいい
- ・不便なところも、不動産が安価というのも要因のひとつ
- ・いいところだけでなく、悪いところも知ってもらうことが必要

地域コミュニティにどうやって入ってもらうか。既存コミュニティに入ってもらうきっかけづくり。ワーケーションをきっかけに段階的にできないか。

全体を通じて地域コミュニティとして考えられる。外国人の受け入れや地域包括ケアシステムも、地域コミュニティで話していけるだろう。

委)：委員、コ)：コーディネーター、審)：審議員、市)：説明担当者

●地域コミュニティと介護福祉

様々なコミュニティが強く根付いている。消防団など県内 2 番目の多さ。強固なコミュニティな分、新規に入っていきづらい。地域包括ケアシステムは国が決めた括りがあるが、既存のコミュニティに合うのか。

協議しているテーマ①「地域包括ケアシステム」

コ) 国が制度設計をし、市にこうやれといったものは 3 つの層にわかれている。

第 1 層は市全体のもの。

第 2 層は 18 小学校区ごとに。

第 3 層はもっと地域に根差したもの

しっかりとしたコミュニティが実際にはあるなかで、そことどうつなげていくのか。そのコミュニティは新しいものを作る？既存を利用する？誰がどういうものを作る？という課題がある。

コミュニティの中で高齢者の暮らしを守るために助け合う必要がある。行政しかできないこと、市民地域ができることは何かを議論する。

今あるコミュニティについて改めて整理をしたい。まず町内会がある。他には？地域で参加していることはある？

委) 庚申様という、農作物の神様を祭って集まってお酒を飲むような地域の集まり。なになに講というように集まった

委) 10 軒ぐらひは町の集まりがあるが、世代が変わって、なかなか話が合わない。コロナになって集まれなくなって悲しい。年齢差で話が合わないから、若い子も入りにくい

コ) コミュニティの代替わりは問題になる。

委) 市が募集している、英会話（カルチャー）レッスンの参加。他の世代、多種多様な人が集まっているが、学びたいという気持ちは一緒。

コ) 同じ目的を持つ人の集まり。

委) 町内会の中で年 2 回とかなんとか講という集まりがあって、男性は男性、女性は女性で集まる会があった。1 軒から 1 人ずつ。参加できなかつたらお金を取られるので、頑張って参加しようという取り決めにしていたけど、若い人がだんだん集まらなくなってきた。集まろうよと呼びかけるが、なかなか難しいよね

コ) 市職員はなんとか講を知っていた？

市) 知っている。前までは講あったが、解散してしまった。農業のお祭りで、3 か月に 1 回とかでやっていた。15 年位前に解散してしまった。

コ) 行方は伝統的なコミュニティが残っている。南房総は 30 年とかそれくらい前にもうなくなってしまった。

委)：委員、コ)：コーディネーター、審)：審議員、市)：説明担当者

委) 観音講とかもあったよね。

委) 当番になると家にご飯を用意したりしなければならない。大変なので、今は飲食店でやろうとなっているが、まだ続いている。

コ) 移住してきた人には大変そう。でも、強いつながりがある地域ともいえる。新しく来た人は村八分と言われる由縁がありそう。伝統的な強いコミュニティがまだまだ行方にはあるが、一方で年代が変わってとかで、無くなりつつあるところもあるのかな。

次は地域包括ケアシステムの話。第1層全市、2層18ある小学校区、3層さらに下の小さな集まりを作れと国から言われて作る必要がある。でも、既にコミュニティのシステムがある。これをどうしていくのか。

既存のコミュニティと国からいわれている新しいコミュニティをどうしていくのか。ほおっておいたら、既存のコミュはなくなってしまう。これを残す？それとも新しいものを作る？市でも動いているということだが、実際のところはどんな感じか。

市) 3つだけではなくもう少し進んでいる。社協やほかの課も含めて、コーディネーターが町内会長や、区長副区長民生委員と話し合い始めている。生活支援コーディネーターが話し合いをして、何か困ったことはありませんかと地域の見直しのようなことを始めている。

コ) その話し合いは2層単位？

市) そう。

コ) 生活に困っている人の声を拾い上げるシステム。問題を3層から2層に上げて、それで解決できなければさらに上に上げるようなシステム。2層にコーディネーターが入って調整をしていく。

市) 地域の活動が固まっている。災害の問題など、高齢者などをどうやって守っていくか。

災害時の避難所運営ゲームなどをやって、地域でどうやって活用するか。心配な人が出たときに、一人暮らしでも民生委員に助けを求めない人をどうするか。

コ) 今うまくいっているのは、地域の結びつきがあるから生活支援コーディネーターが簡単に入っていた。

市) 3層にあたる小さな地域がすでに固まっていて、そこから始めていく。麻生地区の大和などは小さなまとまりだが、麻生地区麻生などは大きくてコミュニケーションしにくい。3層を2層にまとめていくのが難しいところもある。

コ) 香取は地域包括ケアシステムの事例はある？

審) まちづくり協議会を10年位前からやっている。地域コミュニティの組織が合って、担い手不足・高齢化はやはりあり。

コ) 市の方が入り込んでやっている？

審) そう。協議会に担当職員を配置して、手伝いをしている。

市) いつごろから？

審) 10年位前から。小学校単位。30弱あり、27、8くらいは設立。

委)：委員、コ)：コーディネーター、審)：審議員、市)：説明担当者

市) 上手く機能している？

審) 機能はしているが、課題がある。市ががんがん入っていったので進んだが、自立が難しい。

市) コミュニティごとに集まりを作っているのか？

審) 区長やPTA 会長などをリーダーに据えている。既存の組織を活かしつつ、持ち回りになっている。

コ) 行方は行政主体で？

市) 協議体を作って進めているおり、1 層で協議していくのだが、んー、結局ね。

コ) 「んー結局」というそこが本質の問題と思われる。ここで議論していくとヒントがあるかも。香取は市が入った結果、自立ができていない。これはどうしていけばいいのか。誰が主体になるのか。ここで言ったからこうしなきゃとかではないので、思いついたら言ってみてほしい。行政がやるか、民間がやるかという 2 者択一ではないけど、思いつくことがあれば。

委) 区長や民生委員を頼りにするのはいいけど、その人たちがやりすぎると次世代が困ってしまう。はじめるのは良いけど継続するかどうか。前の人はやってくれたのに、今回の人はやってくれないとか言われてしまう。

コ) 属人性に頼るか、システムに頼るか。その人がいなくなると続かなくなる属人性。役所でも同じですよ、その人がいなくなるとできないなんてことはある。どうするべきか。

委) 町の中でも、仕事もみんな違う。人によっても、地域によってもそれぞれが違うので、なかなか難しいよね。小さな町だけど。

委) 色んな働き方で働く時間帯も違う。決められた時間は必ずやらないといけないというのがあると、中々難しいのでは。ある程度まとめられる人がいても、みんなでフォローしていかないといけない。

コ) コーディネーターは属人性だとしても、それを支えるシステムを作らないといけないかもしれない。夜ならいいけど昼はダメという人、逆の人をシステムの的に考えていく。この課題は全国でみんなが悩んでいますけどね。

委) コミュニティは高齢者のもの？

コ) 高齢者の困りごとを吸い上げるシステムだが、「高齢者だけの問題ではない」というところもあって重層的なものになっている。

コ) 色んな課で連携取りながらやっていますよね。

委) 若い人からの意見も吸い上げてもらえるといいのでは？子供が参加してもいい。実際に利用する高齢者だけではなくそういうところからも。メンバーの工夫を。

コ) 意見を聞く場を作るべきでは、という提案。

委) 家族に高齢者がいても、生活時間がずれたりしていて家族間でも認識できていないこともある。若い人にも高齢者にも問題意識が共有できる場ができるといいんじゃないか。

コ) 地域包括システムを構築する中で、若い人もというのは良い案だと思うが、何か意見

を聞いたことは？

市) 消防団がそれに入っているよね？

コ) 災害の関係で？

市) そう。2層単位で関わる。

コ) 千葉県館山市はある一つの地域をターゲットにして、若い人にも入ってもらったワークショップを2年続けた結果、お助け隊というのが立ち上がった。行政の補助金一切なしで500円を実費負担して、助け合う交通ができた。みんなで話し合う場を作ったことで、小さなものだがみんなで助け合うものができた。

キーワードは人と人がつながる場を作ることが大切なのでは、というまとめにしたい。

協議しているテーマ①「定住支援」

コ) 定住というテーマ。移住してくる人に何が刺さるのか。未来の行方の宝は何？それを知ってもらうためのシステム作りができないか。きっかけとしてワーケーションも考えられる。今住んでいる人たちを活用できないか。ここについては次回に回したい。

移住、Uターンを含めて、良いところの情報発信。自然や食べ物で選ぶというのはあるが、調査結果からは「ああいうコミュニティに行きたい」という感情が移住先選びの要素として強いように思う。宝は何だろうか。市側に、移住定住の関係で悩んでいることはある？

市) 地域コミュニティと移住者をどうつなげればいいのかというのが難しい。

コ) 村八分問題。南房総でも祭りに1日でないだけで噂になる。移住者は苦勞しているよう。なんとか講に移住者が入れるシステムはないか。「移住者とコミュニティ」「場をどうするのか」というのを次回やっていきたい。

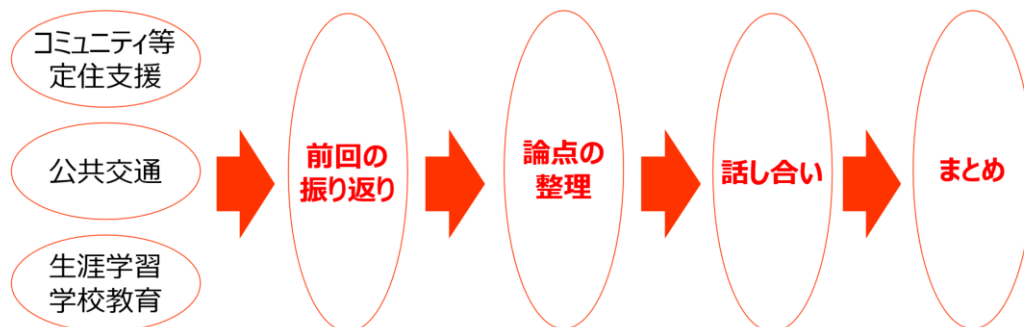
|なめがた市民100人委員会

第2班

住みやすい地域プロジェクト

みんなで育むプロジェクト

|本日の委員会の流れは？



前回の振り返り 前回出されたご意見を振りかえり、整理してみます。

論点の整理 想定される論点を整理します。

話し合い 論点について話し合います。なお、論点にとらわれず、自由な話し合いも“あり”です。

まとめ 改善提案シートにご記入いただきます。形にとらわれず、感覚的にご記入ください。

次回に向けて整理します。十分な記入時間がとれないかもしれません。その都度思いついた時にご記入下さい。

地域コミュニティ・介護福祉

・ 今ある地域コミュニティ

- 町内会や子ども会育成会など地域のコミュニティは存在する。
- 祭礼のコミュニティは年代も多様。文化継承という側面もある。
- 災害時には消防団の役割はとても大事だと感じた。
- 熟年世代の地域貢献という視点も重要。

・ “場”

- 井戸端会議的な集いが必要であり、そのような機会を作るリーダーが必要。
ウオーキング後の集まりなどがあり、イメージは、昔のお店の前の縁台。健康維持にもつながるのではないかな。昔は、まち講もあった。集落センターの活用は？

・ 高齢者・障がい者の視点

- 災害時の避難用支援者の立場にたった安全性の側面もある。これも住みやすさのひとつ。
- 高齢者などから話を聴くという機会が少ないと感じる。どこで誰が困っているかの情報不足。
- ゴミ出し、買い物などの支援がある地域もある。地域の声を聴く必要がある。

定住支援

・ 移住者を引きつける行方市の“宝”

- 災害が少ない。野菜・水がおいしい。治安がよい。
- 不便だと感じる。不動産が安価というのも要因の一つだと思う。
- 良いところだけでなく、悪いところも知ってもらうことが、大切ではないかな。
- 新型コロナ後のライフスタイル変化も見据える必要がある。

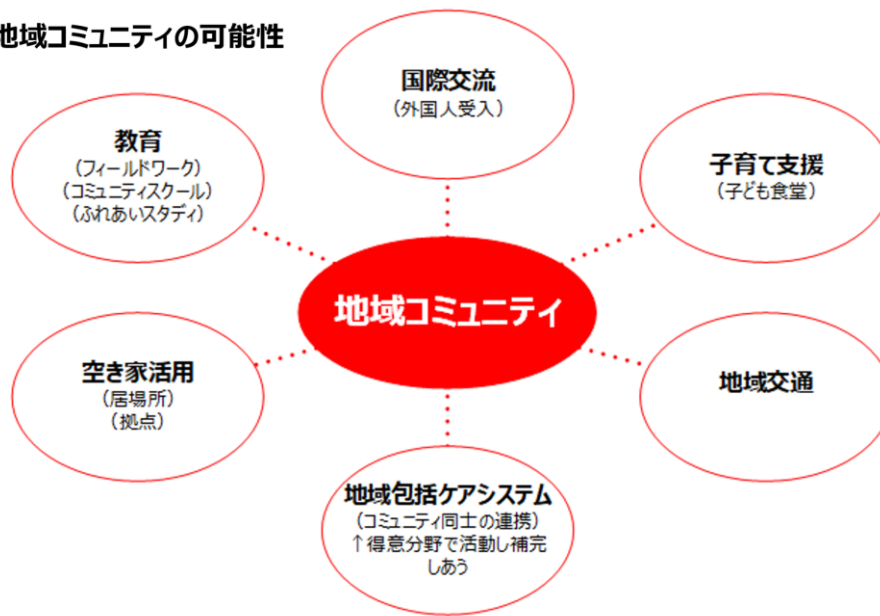
・ 地域コミュニティとの関係性

- 移住者はよそ者？今あるコミュニティへ参加するためのきっかけの“場”が必要。
引っ越してしまった例もあると聞いている。

・ 段階的な移住

- ワーケーションなどをきっかけに、段階的に移住、定住につなげるのがよいのではないかな。

拡がる地域コミュニティの可能性



©hirayama

論点 地域コミュニティ・介護福祉

地域コミュニティ・介護福祉

- **どんなコミュニティを目指すのか？**
 - 既存コミュニティとの関係は？
 - 土地に縛られないコミュニティは成り立つのか？
- **どうやって、コミュニティを創るのか？**
 - コミュニティを創るのは誰か？ 人と人がつながる“場”をどう創るか？
 - 空き家は地域コミュニティの場になれるのか？
- **コミュニティは介護・福祉にどのように貢献できるのか？**
 - 高齢者等の暮らしを守るため、意見を聴く場（道路事情など）をどう作るのか？
 - 地域住民の助け合い（認知症情報などの共有と見守りなど）をどう育てれば良いのか？
- **具体化するための、行政の役割は何か？ 市民・地域ができることは何か？**

定住支援

- ・ **移住先を探している人にとって行方市の魅力は何か？**
 - 行方市の宝は何か？
 - 今の宝は何か？
 - 未来の宝は何か？
 - メリットもデメリットも知ってもらったうえで来てもらうために何ができるか
- ・ **移住から定住、定着につなげるにはどうしたらよいのか？**
 - 地域コミュニティと移住者が良好な関係になるにはどうしたらよいのか？
 - 段階的移住・定住の“きっかけ”作りのアイデアは？ 体験ツアー、格安オフィス。
- ・ **移住ではなく、今行方市に住んでいる人が、空き家を活用する方法はないか？**
- ・ **具体化するための、行政の役割は何か？ 市民・地域ができることは何か？**

